

光設計研究グループは、光学設計を中心とする分野で比較的活発な活動をしている研究グループです。このたび表題のようなテーマでの執筆依頼を受け、われわれの活動に興味をもっていただいたことに感謝すると同時に、この機会に本研究グループの活動を紹介しつつ、その活性化の秘密に迫ってみたいと思います。

光設計研究グループは、日本光学会の研究グループのひとつとして、平成5年7月に発足し、すでに14年以上活動を続けております。当時日本光学会の幹事長をされていた大阪大学（当時）の一岡先生の「光学設計は日本光学会の柱だ。研究グループを作って、もっと学会活動を盛り上げてくれ、優れた研究をいっぱいやっているのだから、自信をもってやったらいい」という言葉に励まされ、企業の光学設計者が中心となって発足させたものです。光学設計を広くとらえ、レンズ設計だけにとどまることのないようにとの願いを込め、研究グループの名称も「光設計」としました。

今では、2年に1度の国際会議 ODF (International Conference on Optics-Photonics Design & Fabrication) をこなし、第6回目となる今回の ODF'08 Taipei は初の海外開催で、現在、台湾の光

学会の方々と準備を進めております。国内での研究会の開催もすでに38回を数えますし、応用物理学会や OPJ (Optics-Photonics Japan) でもシンポジウムを開催しております。チュートリアルセミナーや「回折光学素子入門」という本の出版を行ったこともあります。また、研究グループとして創設した光設計賞も今年で10回目を迎え、OPJでの受賞講演は定番になっています。研究グループとしての個人会員も300名を超え、日本光学会会員の6分の1近くが本研究グループの会員という勘定になります。本研究グループの過去のおもな活動を表1にまとめました。

このように活発に活動をしている光設計研究グループですが、まず特徴的なのは、研究グループを運営する委員の多くが企業からのメンバーだということです。表2に現在の委員を示しますが、委員の多くが、企業で光学技術の開発に携わっているエンジニアです。これらの運営委員が、実に一致協力して研究グループの運営にあたっています。

現在進めている ODF'08 Taipei の打ち合わせのために、台湾側の委員の方が日本を訪問した時のことです。日本側では当然大歓迎でもてなしたのですが、その台湾の方がまず聞いたのは、「皆さん競

表1 光設計研究グループのおもな活動 (2007.12 現在)。

| 活動内容 | 概要 | 開催実績 | 開催頻度 |
|--------------|---|------|--------|
| 国際会議 (ODF) | オリジナルペーパー投稿の場として開催 過去に、東京・幕張・奈良等にて開催 | 5回 | 1回/2年 |
| 研究会 | タイムリーなテーマを選定し、独自で企画・開催 | 38回 | 2~4回/年 |
| シンポジウム | 応用物理学会、OPJ (Optics & Photonics Japan) を利用し、企画提案・取りまとめ | 15回 | 2回/年 |
| チュートリアルセミナー | 光設計の基礎知識を集中的に習得する場として企画・開催 | 2回 | — |
| 光設計賞 | 光設計に関する優れた技術に対して授与し、OPJにて受賞講演 | 10回 | 1回/年 |
| 囲む会 | 光設計に関する著名人を招いて、気軽に論議する場として開催 | 3回 | — |
| 本の出版 | 「回折光学素子入門」と「増補改訂版」をオプトロニクス社より出版 | 2回 | — |
| 創立10周年記念イベント | 10周年として、記念懇談会・記念品配布・ODGロゴ制定を実施 | 1回 | — |
| 運営委員会 | 研究グループの運営に関する方針の決定 | 79回 | 4~5回/年 |

表2 光設計研究グループ運営委員 (2007年度).

| | | |
|------------|-------|---------------|
| 運営委員長 (代表) | 榎田 博文 | オリンパス(株) |
| 運営委員 | 足立 要人 | オリンパス(株) |
| | 石川 弘美 | 富士フイルム(株) |
| | 市橋 宏基 | 松下電器産業(株) |
| | 小濱 昭彦 | (株)ニコン |
| | 河野 裕之 | 三菱電機(株) |
| | 金野 賢治 | コニカミノルタオプト(株) |
| | 雑賀 誠 | (株)トプコン |
| | 柴床 剛玄 | 日本電気(株) |
| | 白土 昌孝 | (株)東芝 |
| | 竹内 修一 | ペンタックス(株) |
| | 辰野 響 | (株)リコー |
| | 西郡恵美子 | サイバネットシステム(株) |
| | 森島 英樹 | キヤノン(株) |

合関係にある会社同士なのに、なぜこんなに仲が良いのですか？」ということでした。われわれにはそんなに違和感のなかったことが、台湾の方にはとても不思議に映ったようです。実はそのあたりに、本研究グループ活性化の秘密があるのではないかと考えています。

活性化の秘密を解く鍵として、以下に2007年度の光設計研究グループ運営委員会方針を示します。これは今年度だけではなく、基本的な活動方針のようになっています。

- ① 委員自身のためになる活動 (委員自身の成長やネットワーク拡大, 情報入手)
- ② 楽しい活動 (お金は儲けて使う。後ろめたいことは絶対しない)
- ③ 役割分担 (巻き込む活動, OB, 社内若手など)
- ④ OPTICAL REVIEW のインパクトファクター増強への貢献

まず方針①ですが、いわゆる学会の委員の中には頼まれてしかたなくやる方もいらっしゃるかもしれませんが、単に義務的なお手伝いだけではやりがいもあまりありません。委員としての活動が自身の成長やネットワーク拡大, 情報入手に繋がるように



図1 ODF'08 Taipei 準備のための訪台での一コマ。

なれば、俄然やりがいも増すと思います。本研究グループでの工夫としては、委員会の後の飲み会があります。これはやるのが当然という風土になっています。また、年に1度は泊まり込みの運営委員会も行うようにしています。このような場を通して、委員相互の信頼関係や切磋琢磨の精神が生まれます。特に光学設計は一人だけの孤独な作業が多いので、他社の方との情報交換に、「お宅もそうですか」という共感があったり、「すごいなあ」と啓発されることがあったりするのは貴重な経験です。

方針②ですが、意義ある活動のためには、お金も必要です。国際会議をやりたいと思ったら1,000万円オーダーの費用が必要で、それが工面できなければ理想は高くても実現できません。光設計研究グループは企業からの委員が多いため、そのあたりのセンスは抜群です。営利団体ではないので必要以上に儲けることはしませんが、意義ある活動を行うために、必要なお金はあの手この手で調達します。しっかり儲けつつしっかり使って活動するので、意義ある活動ができ、より達成感や充実感を味わえる楽しい活動を行うことができます。不正なお金の使い方をしないというコンプライアンスについても徹底しています。本研究グループの個人会員は、日本光学会の個人会員であることが条件であり、さらに本



図2 ICO'04 (ODF'04) の実行委員の皆さん。



図3 ODF'02 のレセプションでの一コマ。

研究グループの年会費2,000円を払っていただくというハードルがあります。しかし、常に会員のため光学業界のための意義ある活動を心がけているおかげで、多くの方に個人会員になっていただいております。いまだに増え続けています。

方針③ですが、うまく行事をこなすためには、よいメンバーを選出して、きちんと役割分担を決めることが重要です。それができれば半分成功したも同然です。自分だけで抱えてやろうとせず、周りを巻き込んでやることも重要です。これによってネットワークを広げ、人を動かす術を学ぶことができます。研究会や国際会議などを行う際には、大学の先生やいろいろな団体の方々と積極的に協業しています。特に、日本女子大学の小館先生をはじめ、小館研究室の皆さんには、本当によく助けてもらっています。アルバイトの学生さんとのちょっとしたやりとりで学生時代を思い出したり、経験談を自慢したり、レセプションではいろいろな方々と交流があったり、楽しいことも多くあります。

最後の方針④は、親学会である日本光学会のためでもあり、日本の光学技術のためでもあり、研究グループのベクトルを合わせるためでもあります。学会の一番の財産はその著作物にあると思います。日本光学会の場合は、OPTICAL REVIEWが重要で

す。研究者としては、よい研究成果をあげればネイチャーなどの有名論文誌に投稿したくなるのが人情ですが、それをやり過ぎると日本のジャーナルの地位が下がります。国際会議のODFを盛大にしていけば、OPTICAL REVIEWへの投稿を増やすことにも繋がります。歴代の運営委員も自身でOPTICAL REVIEWへの投稿を行ったり、編集等への協力をしています。

以上、本研究グループ活性化の秘密にどこまで迫れたかは不安ですが、ご紹介したように、光設計研究グループにかかわる委員は、忙しい会社の業務の合間を使って、楽しく精力的に活動しています。ただ、あまり力を入れすぎると会社での立場がたらくりますので、バランスには気をつけつつ、会員の皆様や光学にかかわっておられる方々、光学業界全体にとって有意義な活動ができるよう、心がけていきたいと思います。

参考：光設計研究グループHP <http://www.opticsdesign.gr.jp/>

日本光学会光設計研究グループ運営委員
足立要人・植田博文（オリンパス(株)）